

## ～令和4年1月 データから見た業界の動き～

### 1月報告のポイント

#### 再び経済活動が停滞、売上高D.I値が4ヶ月ぶりにマイナス 高まる事業継続計画の重要性

##### ■ 概 況

1月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で売上高▲2ポイント（前年同月比+44）、収益状況▲24ポイント（前年同月比+22）、景況感▲14ポイント（前年同月比+34）となった。前年同月比では回復傾向を示しているものの前月比では全項目がダウンし、売上高D.I値がマイナス圏に入るのは昨年9月以来4ヶ月ぶりとなった。

業種別では、製造業は売上高+10（前年同月比+30）、収益状況▲20（前年同月比+30）、景況感▲10（前年同月比+45）となった。1月初旬のホテルや飲食店向けの業務用食材の高需要から食料品製造業では売上げが増加、半導体や自動車産業を中心とした各種製造装置にかかる金属製品の需要も増え、金属製品製造では前年対比約30%の売上増加、生産用機械器具製造でも前年対比40%以上の売上増加が報告された。しかし、原油をはじめ原材料の価格高騰から製造コストが上昇し収益が圧迫されているとの報告が目立ち、取引先に対しコスト上昇分を製品価格に転嫁する交渉をしたいが、今後の取り引きへの影響を考慮して慎重にならざるを得ないという事業者もいる。

非製造業では、売上高+3（前年同月比+53）、収益状況▲27（前年同月比+16）、景況感▲17（前年同月比+26）となった。月前半は感染症が落ち着いていたことから街に人出があり、ジュエリー卸売や飲食料品小売、宿泊業、警備業からは需要が高まっていたとの声があり、塗料卸売からも積極的に設備投資を行う需要先もいるなどの報告がされた。一方、ガソリンスタンドからは年明けに再び原油価格が上昇、市場価格への転嫁をしきれず、組合員の今後の資金繰りが心配であるとの報告がされた。運輸業ではこの原油価格の上昇による収益の悪化（トラック）に加え、月後半の感染症再拡大の影響から人の動きの鈍化やキャンセルが相次ぎ（バス・タクシー）、今後の見通しが立たず先行きに不安を抱えている様子が見て取れた。

今回中央会では、自然災害をはじめ新型コロナウイルスの拡大など不測の事態におかれても事業を継続させていく計画づくり「事業継続計画（BCP）」が重要であるとして、景況調査対象企業・組合におけるBCP策定状況を調査した。全体の30%が「策定したい」と回答し、「策定中」20%、「策定済み」10%となった。今月の調査のコメントにも「組合員企業から感染者が出た場合の事業の継続について組合としての対応を自治体と見直している」（廃棄物処理業）、「事業継続計画（BCP）や社内規程の運用により組合員の安定的な事業継続に寄与したい」（管工事）との報告があり、感染症による長期間の事業停止を余儀なくされるなど今までに経験したことのない事態に事業継続計画策定の必要性を強く感じていることが伺える。国でも策定支援を強化しようとしていることや本県での策定率が未だ低いことから、中央会は従業員の命を守り、企業・組合を存続させていくためのBCPの策定支援、さらには組合員企業間の連携、組合間の連携を図り事業を継続させる連携BCPの策定支援を強化することとしている。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製造業

<p>食料品 (水産物加工業)</p>	<p>月初ではホテルや飲食店向けの業務用需要が高く前年同月比113%、コロナ前と比べると80%程度の売上。燃料費や原材料等の価格上昇から製造原価が上昇、収益を圧迫しつつある。</p>
<p>食料品 (洋菓子製造業)</p>	<p>洋菓子は対前年比133%と好調が続いている。小麦粉をはじめとする原材料、梱包資材、輸送費が上昇しているが、現状で値上げは考えていない。</p>
<p>食料品 (パン・菓子製造業)</p>	<p>1月に入り感染症の新種株の影響が広がり、人の流れが少なくなった。土産用菓子の需要が減っている。</p>
<p>繊維・同製品 (織物)</p>	<p>袖裏地、胴裏地は動きがあるが短納期で忙しい。ネクタイ部門は飛び込みの受注があるが動きは少なく、生糸の値上がりから今後の受注・収益が心配。インテリア・傘地はこれまでの受注品・OEMの生産を行っている状況、新規が無く不安を抱えている。</p>
<p>繊維・同製品 (織物)</p>	<p>売上高に大きな変化は無いが、感染症の新種株拡大の影響はこれまで以上の景気悪化を招く恐れを感じている。</p>
<p>木材・木製品製造</p>	<p>建築用材料、合板等の不足と価格上昇によって、建築工事の延期が発生している。売上高は昨年度対比▲13%</p>
<p>印刷・同関連業</p>	<p>感染症拡大の影響により、イベントの中止・減少を要因として売上が減少、廃業を選択する組合員が増加する恐れがある。組合員の多くは資本力が脆弱な小規模事業者が多く、生産性も高くなく、経営・事業継続等に関わる問題解決力、改善力も弱い。今後も後継者のいない事業所は廃業していくと考えられ、組合員が減少すれば組合の維持・運営が厳しくなってくる。</p>
<p>窯業・土石 (山碎石)</p>	<p>石油製品の高騰や輸送費の上昇などを価格へ転嫁することができず収益が圧迫され、さらに昨年度対比約10%の売上減少から赤字の幅が大きくなった。本来年度末の工事量増加により売上げが上昇する時期であるが、今年度は工事が少ない状況である。リニア関連工事の早期発注が望まれる。</p>

<p>鉄鋼・金属 (金属製品製造業)</p>	<p>半導体や自動車産業を中心に各種製造装置にかかる金属製品の需要が高まり、売上げは前年同月に比べ約30%増加し、設備の稼働率も上昇しているが、急激な需要増に対し、人手不足が深刻化しつつある。</p>
<p>一般機器 (業務用機械器具製造業)</p>	<p>現状の受注量は前年度対比で8%程度の増でほぼ横ばい 部材の入手が難しく、生産量(完成品)は落ちている。 加えて材料をはじめ燃料費等あらゆる製造原価が高くなり収益を圧迫し厳しい経営状況が続いている。 感染症の変異株の拡大が再び経済へ影響を及ぼすことを懸念している。</p>
<p>一般機器 (生産用機械器具製造業)</p>	<p>前年同月と比べ売上げが40%以上増加した。先月に続き受注量は増加傾向にあり、今年度10月頃には4休3勤体制を取る組合員もいたが、現在は通常操業体制に戻っている。今後の見通しが立てづらい環境ではあるが、生産機械の需要は増えており、良い状況が続くと考えている。</p>
<p>電気機器 (電気機械部品加工業)</p>	<p>半導体を使っている部材の納期が遅れており、完成品を納められず前年同月に比べ売上げは▲15%となった。 部材メーカーからは納期に6ヶ月以上かかる製品もあり、顧客に対し納期回答が出来ない。前年の9月頃からこうした状況が続いており、今までにない状況に苦慮している。</p>
<p>電気機器 (電気機械部品加工業)</p>	<p>仕事量がわずかに増加(前年度対比5%)したが、原材料に加え工具なども価格が上昇、収益は悪化傾向にある。 取引先に価格転嫁する交渉を申し出たいが、今後の取り引きにも影響するため躊躇している。</p>
<p>宝飾 (研磨)</p>	<p>感染症は国により影響の大きさが違うことから、バイヤーは慎重な市場判断を行い、結果的に国際展示会の売上げが例年と比べ大きく減少、前年同月に比べ売上げが▲30%となった。</p>
<p>宝飾 (貴金属)</p>	<p>前年同月に比べ売上げは▲50%、収益状況は▲30%となった。例年12月の反動、冬期期間のため需要は落ち込むが、それ以上の感覚。業界の景況感悪化している。</p>

● 非製造業

<p>卸売 (塗料)</p>	<p>海外市場向けの製品を製造する事業者に積極的な設備投資が目立つが、それ以外は新種株の感染が収まった以降で無いと回復しないと考えている。</p>
<p>卸売 (自動車中古部品)</p>	<p>新種株の感染拡大により自動車メーカーの減産が酷く新車の納車がさらに減ったことから廃車が減少、先行きも不透明。販売する部品等の価格は高値で安定しているが、販売する部品が無く売上減少、廃車が例年増える2月～3月に期待している。</p>
<p>卸売 (ジュエリー)</p>	<p>首都圏の百貨店やファッションビル等に人出が戻り、主に月前半には前年同月に比べ売上げは20%の増加となったが、新型コロナウイルス感染症が再拡大し先行きは不透明である。</p>
<p>小売 (青果)</p>	<p>年始めには需要があったが、感染症の再拡大により人流が抑制され売上げは伸びなかった。先行きが不透明で不安を抱えている。</p>
<p>小売 (電気機械器具小売業)</p>	<p>昨年度は感染予防に関連するエアコンや空気清浄機に対する補助があったことから特別に需要が多かったが、今年度は需要が落ち着き、昨年度対比では▲10%の売上、景況感は横ばいである。</p>
<p>小売 (ガソリン)</p>	<p>年明け原油価格が急騰、卸売価格の上昇に市場価格がついて行けず、価格転嫁しきれないスタンドがほとんど。今後の資金繰りが懸念される。</p>
<p>商店街</p>	<p>組合が管理する駐車場売上げが前年同月比60%増加だが、一前年と比べると42%の売上にしかならない来街者の減少が著しい状況。組合員の売上げも減少し、商店街としての先行きに不安を抱えている。</p>
<p>宿泊業</p>	<p>年末年始や3連休はまだ人流も多く組合員の施設でも満室があったが、その後の新種株の感染急拡大によりイベントの中止や観光客の減少が続いている。先行きに不安を抱えている。</p>
<p>一般廃棄物処理</p>	<p>組合員企業から感染者や濃厚接触者が出た場合などの作業員が不足する状態においても止めることのできない生活ゴミの収集運搬の継続について、収集方法など自治体と再度見直しを図っている。</p>

警 備 業	1月前半は感染拡大が落ち着いていたことから、初詣・初売り等の警備が増加。加えて土木建築工事も引き続き順調であり、警備員の派遣件数は前年度実績を上回った。売上高も好調を維持していたが、1月後半から感染症の変異株の拡大により観光客が激減、商業施設等の警備業務が縮小又はキャンセルとなり、全体の売上げは伸び悩んだ。また、依然として警備員不足であり、新規採用するも長続きせず、高齢者の退職もあり必要人員が確保できないことから受注を抑制している。
建 設 業 (総 合)	公共工事では前年同月と比べ件数は▲11%、請負金額も▲48%となった。1月末累計では、件数は▲2.7%となったものの請負金額では9%の増加となっている。
建 設 業 (型 枠)	建材の高騰、職人の不足及び高齢化など様々な事業継続にかかる懸念事項がある。これを克服するための請負金額は上がらず、業界全体で厳しい状況が続いている。
建 設 業 (鉄 構)	鋼材価格が高止まり、上昇分を製品価格に転嫁できている組合員もいるが、加工費の圧縮で対応している組合員もいる。材料の供給も不安定で先行きを懸念している。
設 備 工 事 (電 気 工 事)	電気工事材料（特に電線類）が品薄となっており、高圧ケーブルについては納入時期が未定の状況が続いている。
設 備 工 事 (管 設 備)	感染症の変異株による急激な感染拡大の影響を身近に感じている。組合として事業継続計画（BCP）や社内規程等の運用により、組合員の安定的な事業継続に寄与していきたい。
運 輸 (タ ク シ ー)	新種株の感染が急拡大し、戻りつつあった人の動きが1月後半に入り鈍化、売上げが減少した。感染が拡大している今は今後の見通しが立たない。
運 輸 (バ ス)	感染症の新種株の影響からバス利用のキャンセルが増加している。資金繰りに苦慮する組合員もあり、先行きが不安。

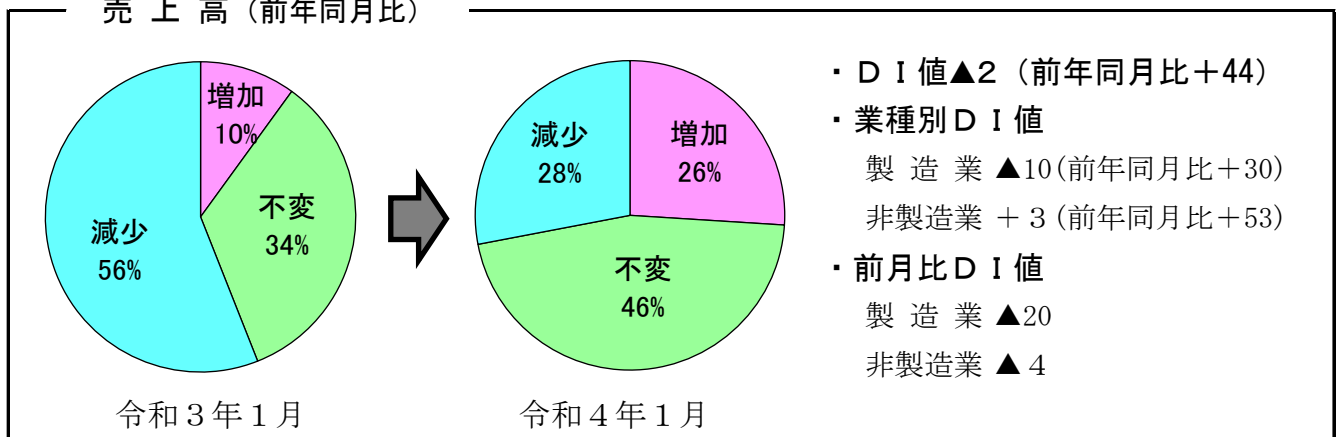
<p>運 輸 (トラック)</p>	<p>燃料代の高騰により収益状況はかなりのダメージを受けている。</p>
<p>その他 (介護)</p>	<p>売上げは前年同月比125%となった。仕事量は増えているが、利益率の低いサービスであるため経営の改善には至らない。</p>

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

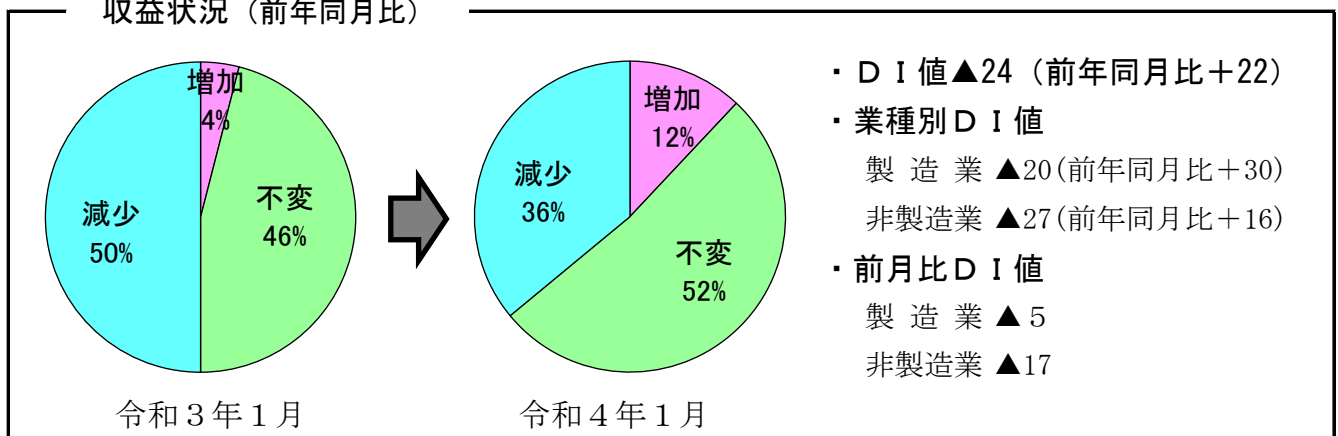
対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2021/1	2021/12	2022/1	2021/1	2021/12	2022/1	2021/1	2021/12	2022/1
売上高	-40	10	-10	-50	7	3	-46	8	-2
収益状況	-50	-15	-20	-43	-10	-27	-46	-12	-24
景況感	-55	-10	-10	-43	-7	-17	-48	-8	-14

※( (良数値÷対象数) ×100) - ((悪数値÷対象数) ×100) =D. I値

売上高 (前年同月比)



収益状況 (前年同月比)



景況感 (前年同月比)

